



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン



放射線診断科・放射線治療科

病院全体の質の向上に貢献する“横断的診療科”

K E I O
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol. 25
July 2025

ご自由に
お持ちください

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

放射線診断科

最適で高精度の画像診断と 患者さんにやさしい画像下治療

放射線診断科は、ほとんど全ての診療科の画像診断を横断的に担当する診療科です。X線・超音波・CT・MRI・PET／SPECTなどのあらゆる画像検査を統括管理しています。そして、①最適な画像検査の組み立てと主治医の先生方への提

案、②患者さんの病態に合わせた最適な撮影法の現場での指示、③検査の安全の確認、④精度の高い診断（読影）を担っています。また、カテーテルなどを用いた画像下治療（IVR）も行っており、侵襲が少なく手技を患者さんに提供しています。

当院にはIVRを専門とする医師も多数おり、がんの焼灼・凍結治療、動脈塞栓術、リンパ漏の治療など、幅広い症例に対応しています。特に最近では、血管腫・血管奇形に対する高度な治療や、保険適用が拡大されたラジオ波焼灼術・凍結療法にも力を入れています。当科には、放射線診断専門医が約30名在籍し、各診療科との毎週のカンファレンスで、患者さんの治療方針を画像診断やIVRの視点から議論することで、より質の高い医療を提供しています。



放射線診断科 医師
陣崎 雅弘
じんざき まさひろ



核医学を応用した 新たな治療（セラノステイクス）

近年、核医学検査の診療用放射性同位元素を用いた、新しいがん治療が大きな注目を集めています。これは「治療（Therapeutics）」と「診断（Diagnostics）」を一体化した新しい医療技術で、セラノステイクスと呼ばれ、放射線診断科と放射線治療科が協力して施行しています。まず、PET装置やSPECT装置を用いて、原発巣や転移の状態を画像で可視化します。次に、診断に用いた薬品が治療用の放射線を放出できるように加工して体内に投与し、腫瘍の縮小を目指します。

セラノステイクスを実施するには専用の病棟が必要で、当院では2025年4月より2部屋開設しています。これにより、小さな病変をより正確に診断し、低侵襲治療へとつながられる先進的な医療の提供が可能となっています。現在は神経内分泌腫瘍が対象になっていますが、今後、前立腺がんにも広がっていきます。今後も、当院ではセラノステイクスを積極的に推進し、患者さんに優しい医療を目指していきます。



当院から発信する 健康長寿時代の画像診断

これまでの画像診断は、がん・動脈硬化・感染症などを対象とし、何歳まで生きられるかという「生命寿命」の延伸への貢献に重点を置いてきました。しかし、超高齢社会においては、何歳まで元気に生きていられるかという「健康寿命」の延伸が重要なテーマで、我々は健康長寿に貢献する画像診断学を構築したいと思っています。

そのためには、機能異常の早期発見が重要です。我々は機器メーカーに、臥位（寝ている状態）でも立位でも撮影できるCTを2012年に提案し、2017年にまずは立位のみ撮影可能なCTを共同開発し、当院で立位撮影の有用性を検証しました。そして、臥位、座位、立位の3つの体位で撮影可能なマルチポジションCTの共同開発を進め、その1号機を2025年の3月に当院に導入しています。

従来の臥位での画像検査では診断できなかつた、立位でのみ症状のある方、骨盤底の緩み、骨盤脱、鼠径ヘルニア、姿勢の変化、フレイル診断のための筋肉量の経時変化、などの評価に有用です。

臥位



座位



立位



放射線治療科

先進的ながん治療 生活を変えずに、切らずに治す

放射線治療は、がんの三大治療の1つです。がんを狙って強い放射線をあてることで、がんを治す治療法です。手術のように体を切らずに治療できるため、体への負担が少ないのが特徴です。他の治療（手術や抗がん剤）と組み合わせ使われることも

あります。

この放射線治療は、現在のテクノロジーの進歩により「切らずに治す見えないメス」にたとえられ、そのメスの切れ味が急速に鋭くなっている注目の治療法です。ちょうど、みなさんが使っているスマートフォンと同じ速さで進化



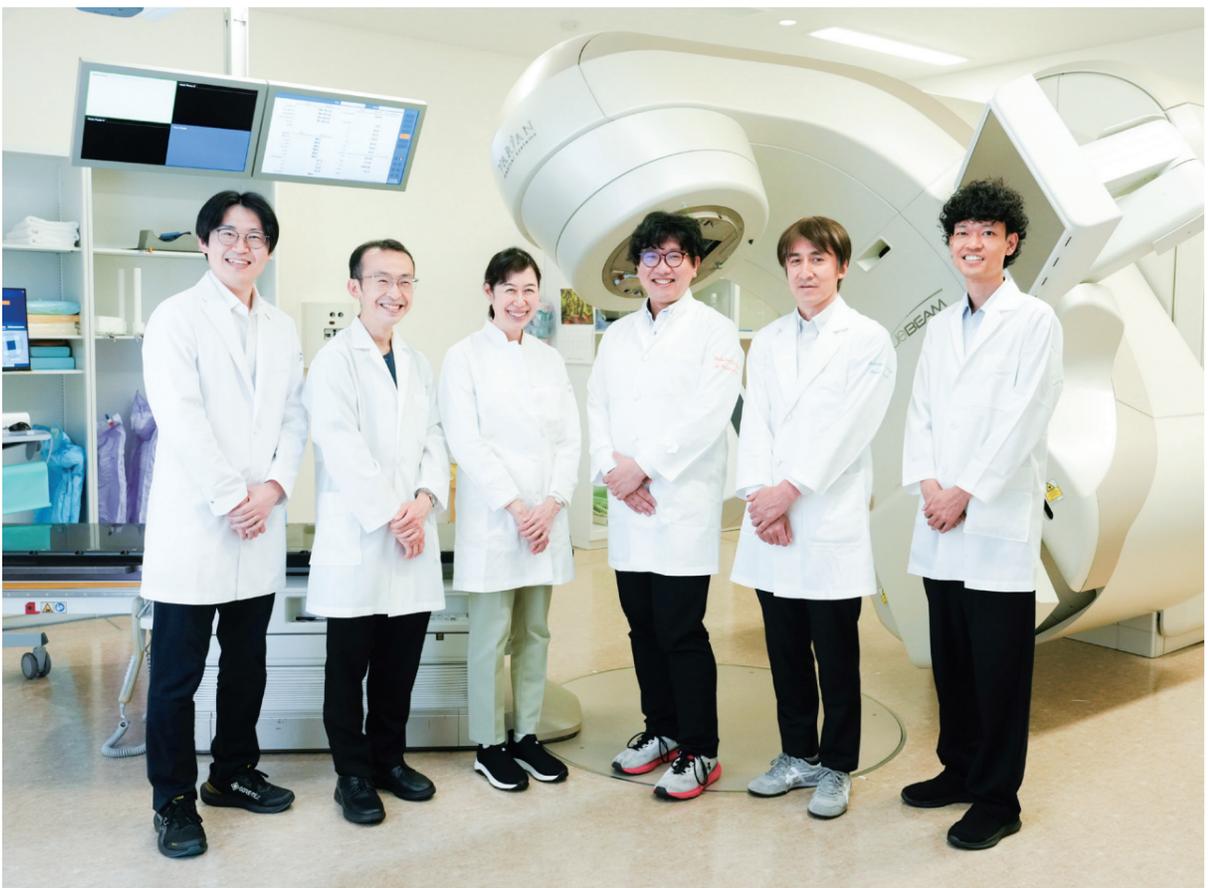
放射線治療科 医師
武田 篤也
たけだ あつや

していると想像してください。今日の放射線治療は、病巣を正確に狙えるようになったため、周囲の不必要な照射範囲が少なくなり、おかげで副作用も減りました。さらに、がんが高線量の照射を行うことが可能になったため、治療成績も向上し、多くのがんにおいて手術に匹敵する成績が報告されています。また、症状を緩和する場面においても有効で、がん診療のあらゆる場面において用いられています。しかも、放射線治療は、治療中は全くなにも感じない、痛みのない治療法です。日常生活や仕事をしながら、通える方は通院で治療を行います。治療は1回10-20分、数日から数週間にわたって行われます。

部定位放射線治療と呼ばれます。対象となる疾患は、肺がん、肝臓がん、膵臓がん、腎臓がん、前立腺がん、オリゴ転移（後述する少数個の遠隔転移）、脊椎転移です。体幹部定位放射線治療は、例えば3日間の治療を行うだけで、手術に匹敵する効果が期待できます。たとえば、肺がんは罹患率2位、死亡率1位のがんですが、そのうち約半分はI期の早期がんで見られます。

その早期肺がんに対する標準治療は世界中で手術です。しかし現在、欧米では体幹部定位放射線治療を選択する患者が増加しています。オランダではすでに過半数の患者が、アメリカでも約半数が、体幹部定位放射線治療を選択しています。

当科には、放射線治療専門医9名、医学物理士2名が在籍しています。2024年には年間1033例の治療を行い、病院のがん診療を支えています。



意思決定支援 (Shared Decision Making)

— 選択肢を示し、患者と医師が相談して治療法を決める —

従来、病気にかかる、医師が最適と考える治療法を提案し、患者さんが同意する方法（パターンリズム）で診療が行われていました。しかし、最

近では複数の治療選択肢が存在するようになっています。それぞれの治療法にはメリットとデメリットがあります。それらを患者さんの好み、価値観に照らし合わせ、医師と患者さんが相談しながら治療法を決めていく方法（シェアードデシジョンメイキング）が注目されています。前述の早期肺がんですと手術、体幹部定位放射線治療、ときに無治療経過観察の選択もあります。ほとんどの患者さんや家族の方は、がんと診断されるとインターネットで調べると思います。しかしそこには正しい情報と、時には広告まがいの怪しい情報などが混在しています。信頼できる医師と直接相談できる参加型の診療は、気持ちの整理ができ、納得して治療を行えるために、治療へのモチベーションアップにもつながります。私たち放射線治療医はシェアードデシジョンメイキングのさらなる推進を目指していきます。





慶應義塾大学病院「国際診療部」は、海外から来院される患者さんや在留外国人の方が言語・文化の壁なく適切な医療を受けられるよう支援する専門窓口です。医師、看護師、医療通訳、国際医療コーディネーターなど多職種が連携し、英語・中国語をはじめ十数言語で受診前相談、予約調整、診療同席、入院手続き、保険請求、帰国後フォローまで一貫してサポートします。

海外医療機関との診療情報共有、ビザ取得用書類や医療費見積書の作成にも対応し、緊急疾患から高度専門治療まで全診療科と連携して国際基準の医療を提供します。国際標準の研究を受けた医療通訳者が診察室での逐次通訳だけでなく検査説明書や同意書の翻訳も担い、年間延べ数百人の多様な患者さんを支援しています。

受診希望の方が周囲にいらしたら、お電話でご連絡ください。国際診療

国境を越えた架け橋として 国際診療部

部が迅速に担当診療科と調整し、必要書類や費用の目安をご案内いたします。当院は「Japan International Hospitals」認証を取得し、安心・安全な医療を世界に提供することを使命としています。国境を越えた架け橋として、皆さまの健康と安心を全力で支えます。

日本初の試み：オリゴ転移センター

2025年2月に、慶應義塾大学病院の診療クラスターの1つとして、日本初となるオリゴ転移センターを開設しました。オリゴ転移とは、少数個のみの遠隔転移が存在する病態をいいます。従来は、遠隔転移がある場合、原則として全身療法が推奨されてきました。しかし、少数個の転移がある場合、それらの転移に局所治療（手術、放射線治療、穿刺治療など）を行うことで生存率が上昇する可能性が報告されています。また、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、ゲノム医療などの全身療法も日進月歩の勢いで進化しています。そのため、それぞれの患者さんに対する最適な治療法は定まっていません。患者さんは完治を目指す治療を望んでおられます。我々は慶應義塾大学病院でがんを扱うすべての医師の総力を結集して、治療法を模索、探索し、提供していきたいと考えています。



診療部門の新しい分類

内科系診療科、外科系診療科、そして横断的診療科

一般的に病院の診療科の分類は、内科系と外科系に分けて表記されることが多いですが当院のウェブサイトでは2025年4月から“横断的診療科”という枠組みを加えて、3つの分類にしました。

内科系、外科系は専門領域を縦割りにした診療科ですが、横断的診療科はあらゆる専門領域を広くサポートすることを役割とし、病院の質の向上に貢献しています。縦の糸と横の糸がしっかりかみ合うことで、よりよい診療の提供を目指しています。

内科系

呼吸器内科	循環器内科
消化器内科	腎臓・内分泌・代謝内科
神経内科	血液内科
リウマチ・膠原病内科	小児科
精神・神経科	

外科系

一般・消化器外科	呼吸器外科
心血管外科	脳神経外科
小児外科	整形外科
形成外科	産科
婦人科	眼科
皮膚科	泌尿器科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	歯科・口腔外科

横断的診療科

放射線診断科	放射線治療科	リハビリテーション科	麻酔科
救急科	総合診療科	臨床検査科	病理診断科



“見る”入院案内と“触れる”問診 入院のご案内の動画化とiPad問診

「入院のご案内」の冊子の内容を動画にまとめました。院内での待ち時間やご自宅など、場所や時間を問わず、患者さんご自身のスマートフォンやパソコンからご覧いただけます。



▲入院のご案内のQRコード

動画をご覧いただくことで、入院に関する手続きの流れを事前にご確認いただけるため、手続き時間を短縮することができます。必要なときに何度でも見直すことができますので、安心してご準備いただけます。また、これまで紙でご記入いただいていた「看護情報シート」は、iPadを使って入力していただけるようになりました。

画面は大きな文字で見やすく、選びやすいレイアウトになっており、手書きの負担を軽減します。

聞こえにご不安のある方へ 「きこえカード」のご案内

安心して受診していただくため、ご希望のコミュニケーション方法をきこえカードでお知らせください。詳しくは下記にてお尋ねください。

◆カード発行場所◆

総合相談窓口(2号館1階)
総合案内(正面玄関付近)



<みほん>

表面 裏面

患者サロン

がん患者さん・ご家族を対象に「患者サロン」を開催しています。テーマ毎の講義に加えて、スタッフ・参加者同士の情報交換を行っています。Zoom・会場での参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしています。



▲最新情報はこちらからご確認ください

【2025年度開催予定】

- 第2回 2025年8月23日(土)「AYA世代のボーイズ、メンズ集まれ!-男性のピアランスケア-」(会場開催)
- 第3回 2025年11月頃
- 第4回 2026年2月頃

がん患者さんとその子どものサポート プログラム参加者募集(SKIP KEIO主催)

「がん」という病気とその治療、親ががんであるために生じる気持ちへの対処等について学ぶプログラムです。

「CLIMB[®]プログラム」

日時:2025年11月30日、12月7日、14日、21日(日曜日)
10時~11時30分(全4回)

開催形態:対面で行います。

対象:親ががんで治療を受けていて、親の病気の説明を受けている「小学生のお子さま」



▲最新情報はこちらからご確認ください



※プログラムの詳細や申し込み方法は慶應義塾大学病院ホームページや院内のデジタルサイネージ等でお知らせいたします。

SKIP KEIOとは

多職種で構成される「がん患者の親を持つ子どもへのサポートチーム(Supporting Kids of Parents with Cancer)」で、様々な活動を通して、がん患者さんとその子どもへの支援をしています。

患者サロン・CLIMB[®]に関するお問い合わせ

がん相談支援センター 03-5363-3285(直通) 平日9時~17時



アンケートにご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。



COLUMN

Keio Outstanding English Communication Award (KOECA)



胸元のバッジ

従事しています。

2025年2月20日(木)に第1回表彰式を開催し、基準を満たした受賞者13名(看護部門13名)に対して賞状とバッジが授与されました。受賞した職員は胸元にバッジを身につけ業務に従事しています。

KOECAは、本学医学部卒業生の菅沼安嬉子先生のご寄付により設置されました。本賞は、最前線で患者さんに対応するメディカルスタッフの英語力を向上させること、それにより海外からの患者さんへのサービスの質を高めること、そして職員のモチベーション向上に繋げることを目的としています。

〈受付時間・休診日〉

- 外来診療時間 8時40分~12時00分、13時00分~16時00分
- 面会時間 ※面会は医療上必要な場合に制限させていただいております。詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。
- 休診日 日曜日、第1・3土曜日/国民の祝日・休日/年末年始(12月30日~1月4日)/
2025年8月30日(土)
2025年9月23日(火・祝)は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

